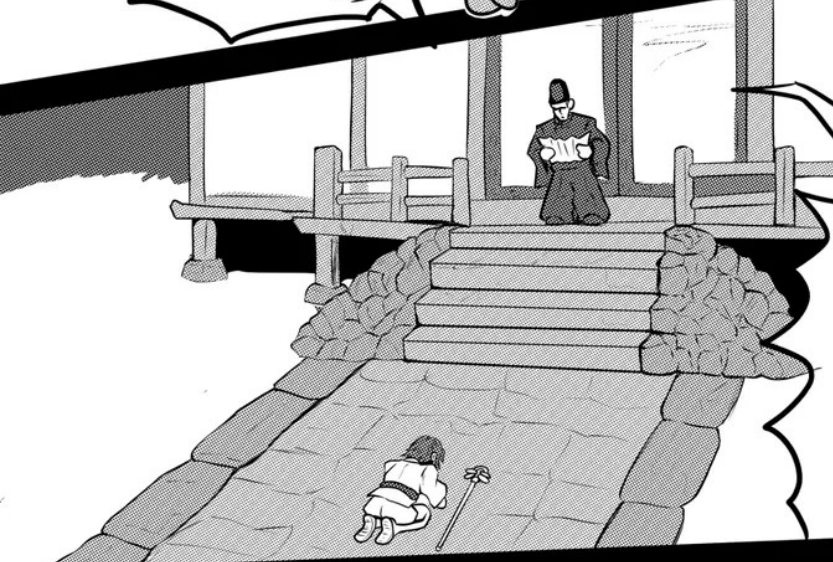




うう…

数日前

退魔教皇様よりの
勅命を伝える！



退魔師、間切家の
管轄地にて複数の
荒御崎が確認された！
疾く急ぎ律令の如く
これに対処せよ！

えっ…あの…
ぼく、いえ間切家は両親が
身罷り、ぼくは退魔職を
引き継いだばかりで…



その…荒ミサキって神様
ですよ…？
経験のないボクなんかじゃ
対処なんて…

そちらの事情など知らぬ！
これは教皇様から間切家
に対しての奉勅である！





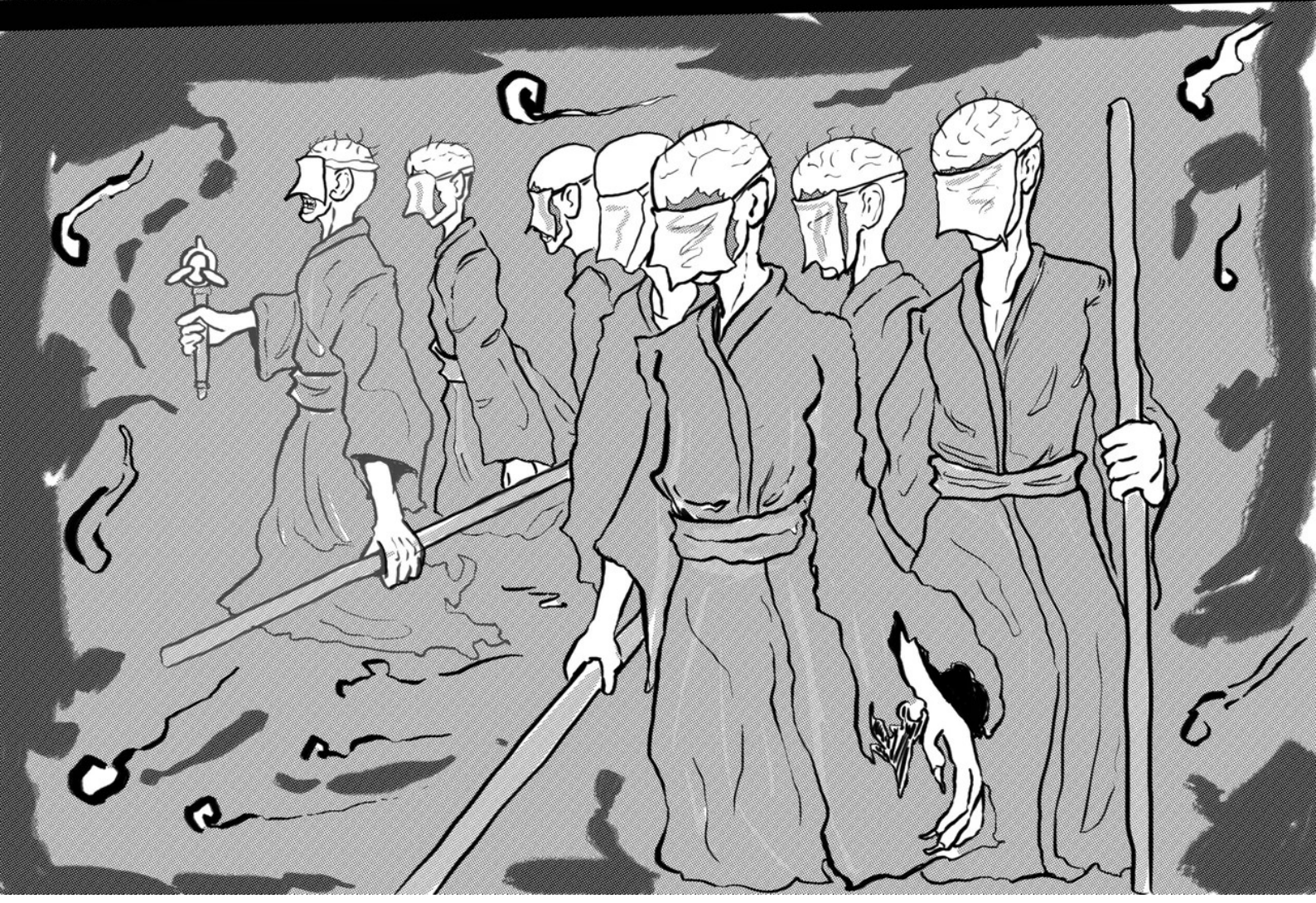
もう、近くに
いるんだ



道なりに小動物の死骸...



くものすが...



123...7...7柱の荒御崎...
こっ...これって7人ミサキ
じゃないか...
こ、こんなの絶対に無理だよ...



ううう...でもやらなきゃ...
教皇様の命令は絶対だし、そむいたら
破門されて間切家は取り潰しだし...

間に合った
ようだな
私も手伝おう

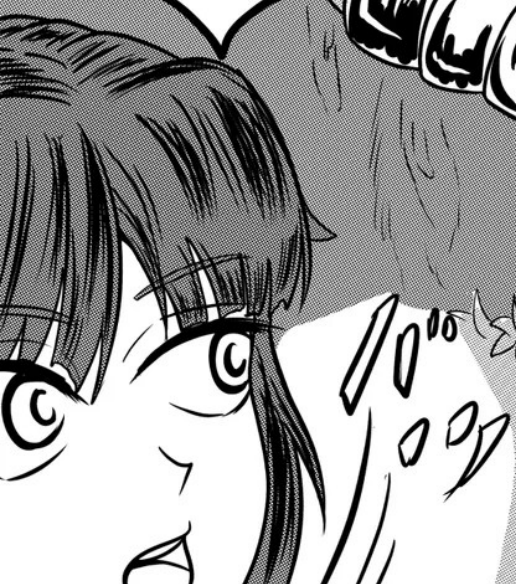


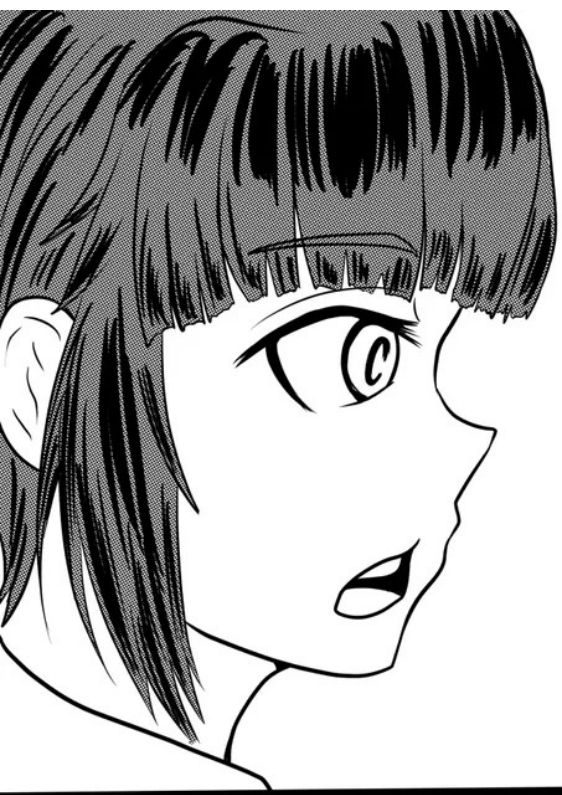
七体の荒御崎...
あれは7人ミサキか...私も初めて見るな



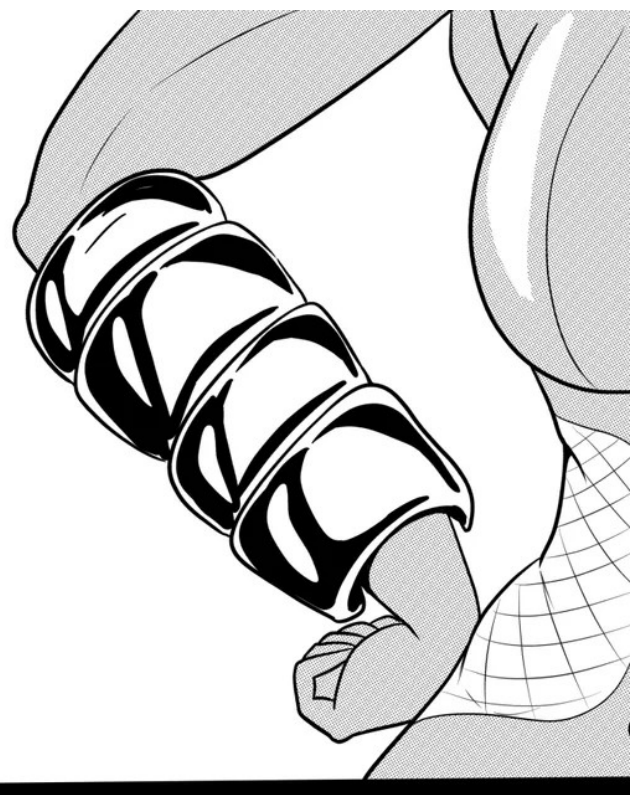
えっ!?

いつの間に!?





白い抗魔スーツに
白銀の防具…？
あれ？まさかこの人…



では…早速始めようか

チャキ



白鋼の退魔師！禍津姫一葉さん！？

私を知っているのか
ならば話が早いな
よろしく

えっ？

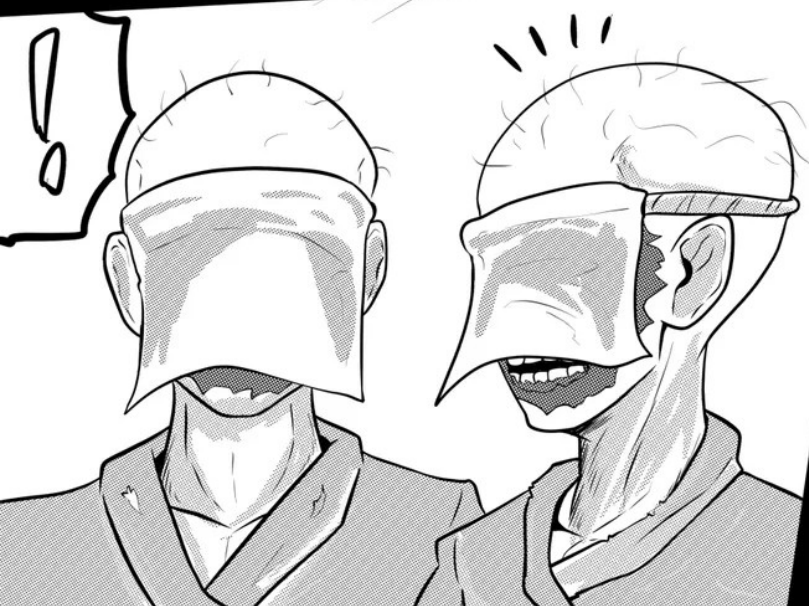
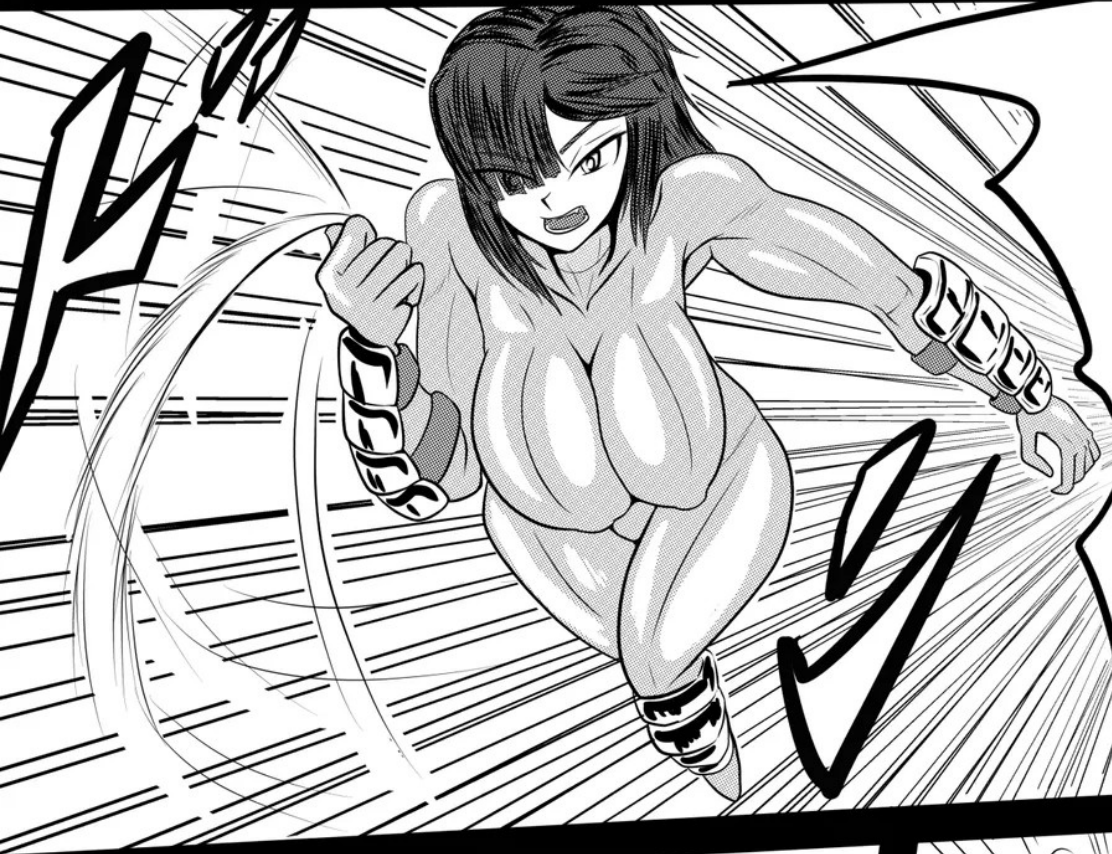
あの…時間はかかりませんが…
神祓いの儀式を準備をした方が…

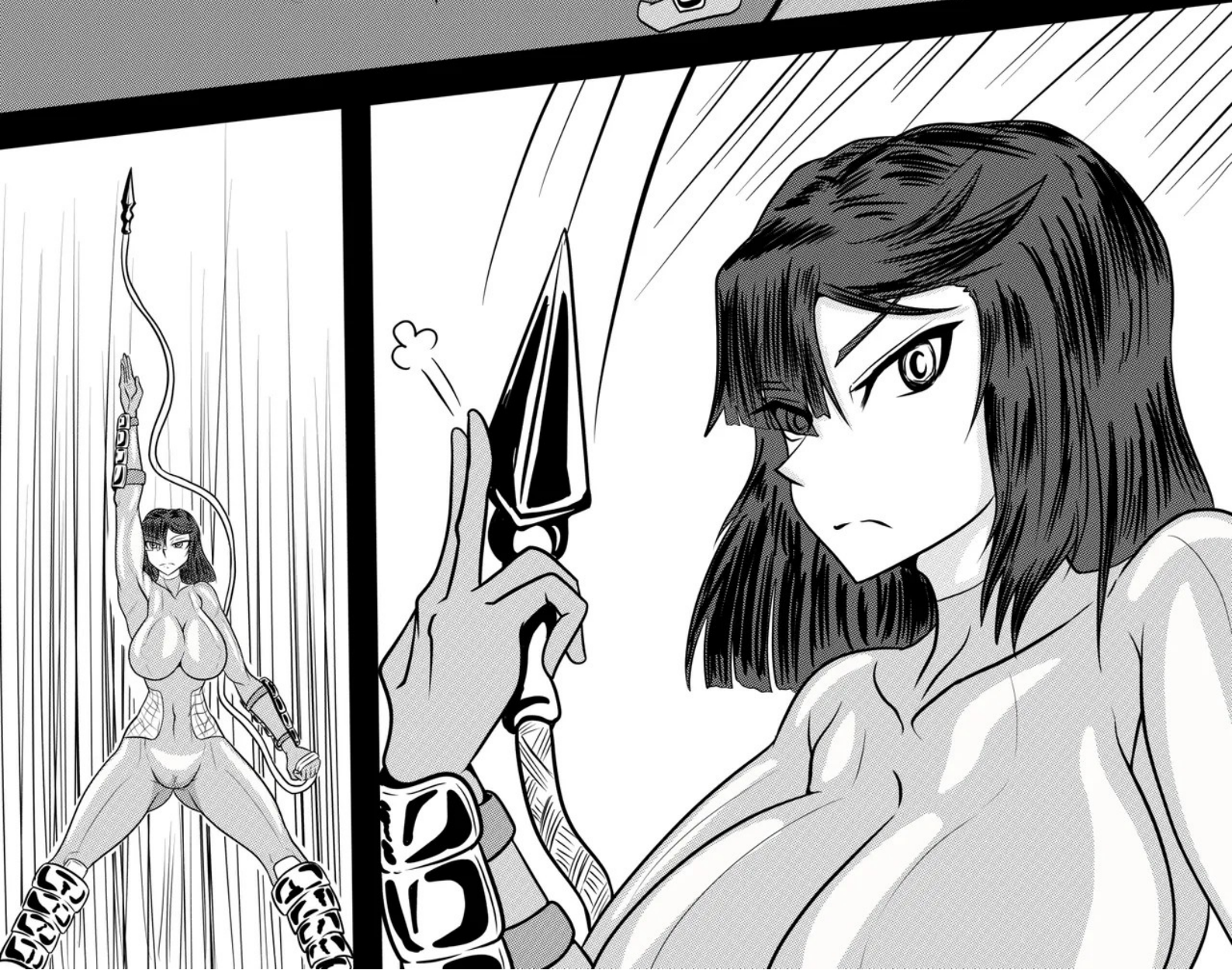


そうしたい所だが、ここから少し進めば市街地
に出てしまう、7人ミサキが街に出現すれば
どれだけ犠牲が出るか分からない

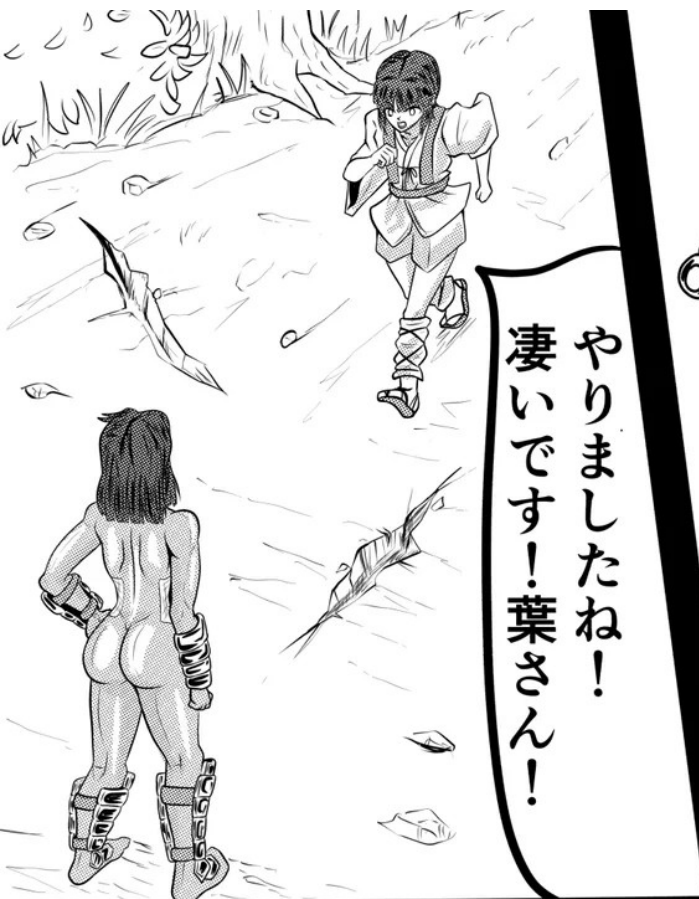


だから！ここで仕掛ける！
キミは後ろからサポートしてくれ！
白兵戦は私に任せてくれればいい！









やりましたね！
凄いです！葉さん！



妙だな…手応えが無さすぎる…
7人ミサキ…
この程度の怪異なのか？

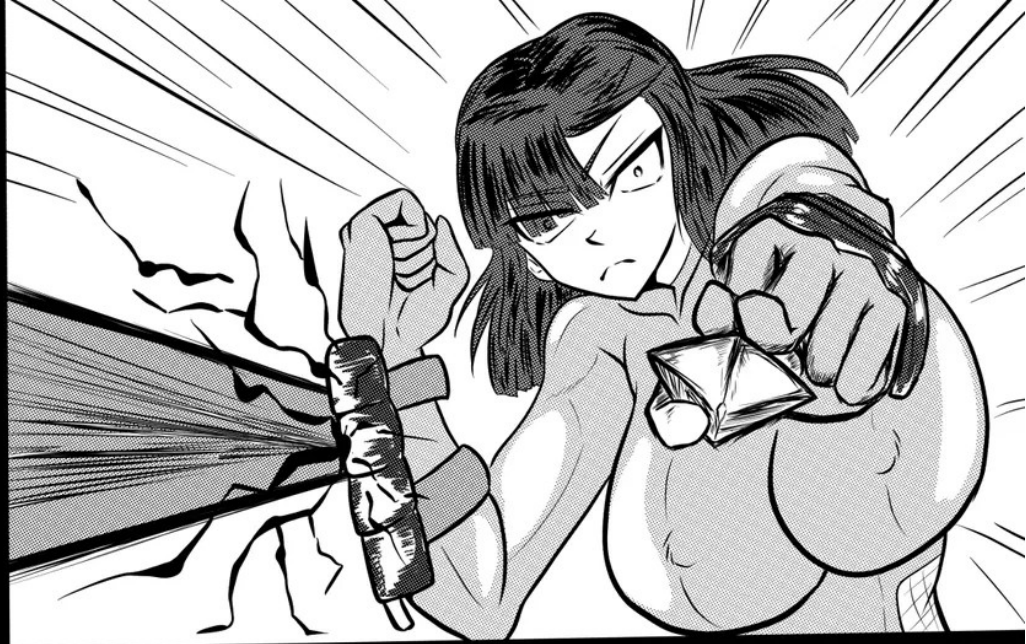


任せてください
儀式は得意
なんです

ズズズ

荒御崎にしては手応えが
感じられない、念のために
鎮めの儀式を頼めるか？





7人ミサキの金剛杖が一葉の肉体を打ちすえる



抗魔繊維で作られた退魔スーツは衝撃を受けると
瞬時に硬化、弾ける事によって装着者の肉体を守る
特性を持つ自己修復機能があり時間が経てば
破損部分は元に戻る



我ら7人ミサキ…元は人であった…
ワシは托鉢の乞食坊主を1人殺しただけで
数百年もこの仕打ちよ…



その女を新たに、7人の1人に加え
ワシは解放されるべきであろう



テメエ!
抜け駆けする気か!



この忌々しい呪いから
抜け出すのは
俺だ!

ふざけるな!俺は!
女子供10人ぼっち拷問
したただけだ!
こんな血も涙もない扱いを
受ける謂れはない!



元極道かワレえ!



ええい!やめんか!

この女より古の神の気配を感じる…
やり方次第では、我らの苦しみを全て
背負わせる事が出来るやも知れぬ…



神を孕める器であれば我らの代わりを産ませ
永遠に7人ミサキを産み続ける存在に出来る

おお…では早速、神孕み
の器かどうか試して
みようではないか



う…くっ…これは…
なにをする気だ!

気がついたか退魔師よ
ククク、寝ていた方が苦しまずに済んだものを





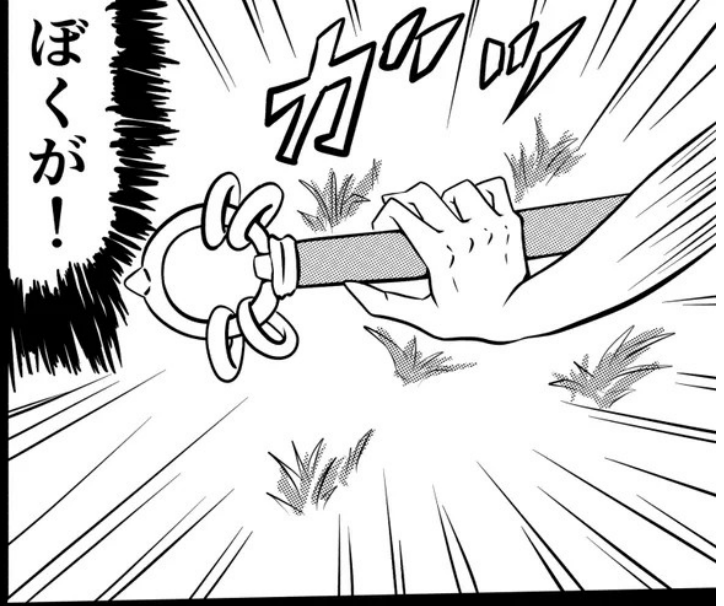




助ける ←
逃げる



助けなきゃ!



ぼくが!

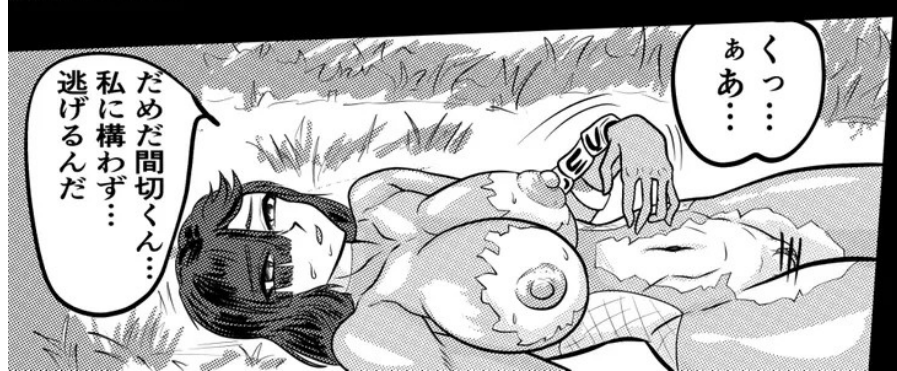


おい起きろ
子作りの開始だ



呪いを子宮に
流し込んだら派手に
イキよった

思わぬ拾い物だ
楽しめるぞこの
女は



くっ…
ああ…

だめだ間切くん…
私に構わず…
逃げるんだ



父さん…母さん…
ボクに力を貸して…!



間切流修験法術！
滅波！



ハアハア…
気力がもう…
これ以上は無理…

ズン



ぬう!?



うっ!?



おい

今のが全力…
もう霊力が…



今のは少し…眩しかったぞ

そのまま
ひねり潰せ

何だこの
ガキは

ガキモツ
児童臍物
トバ
売捌してえ



ガキに用はない
ワシが食い殺してやろう

たっ…食べるなら…
ボクだけに…
一葉さんは助けて
ください…

それは無理な相談だ

ヒイツ!





ハオマー
カズハ!

相変わらず
いい体してるネー
また精気吸わせてよ
先っただけいいから

今する話か
それは!



うっ…
来てくれたのか

ギョロ



ギョロ
だよ

ええい!
いつまで背負っている!
振り落として殺せ!

きさま!何者かあ!



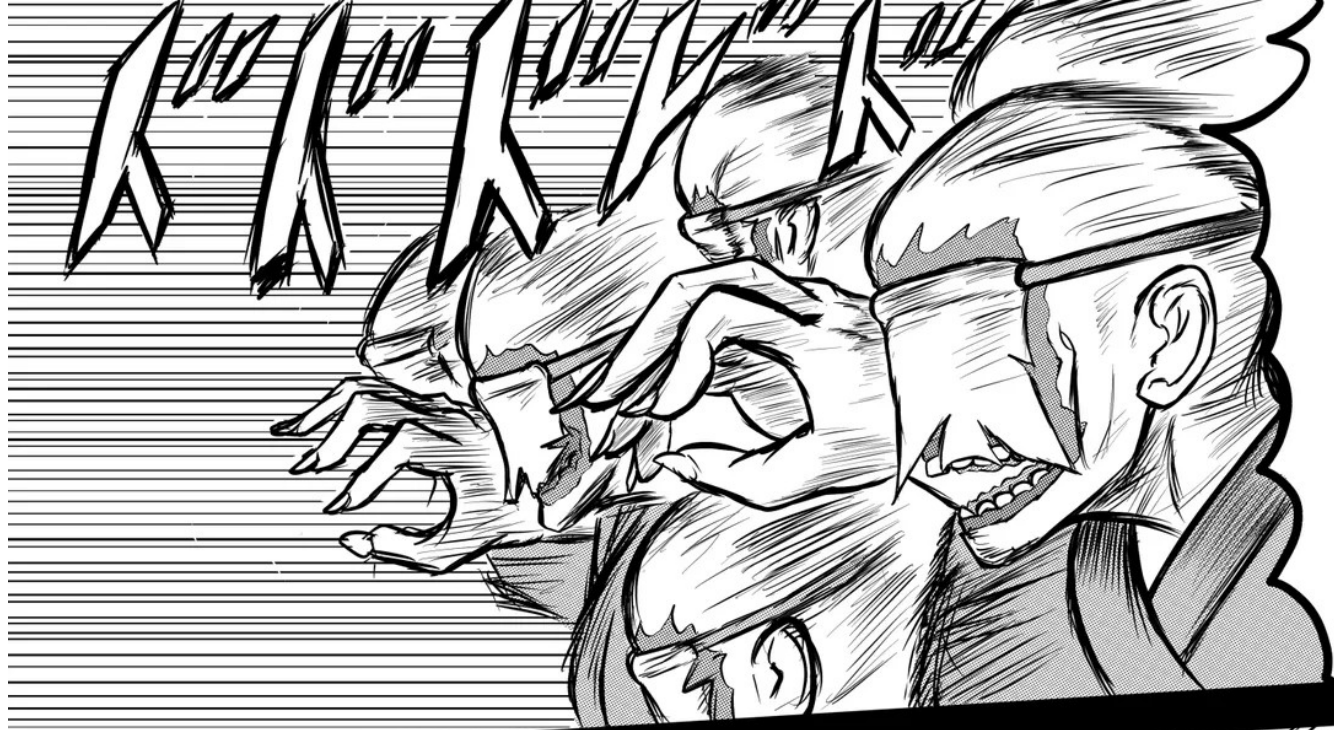
ああッもう!うるさいなあ!
我が名は伊爾根覚羅!そして兵仙だ!
イルゲンギョロ

あんたは私の仙術、御剣伏魔
にかかって動けないんだよ、分かったかハゲ!



うっ…動けんのだ!
この女何者だ!何をした!?

仙人か兵仙かは知らんが
一柱を抑えた所で、我ら七人
ミサキ、残りの六人で細切れ
に引き裂いてくれるわ！



馬ッ鹿がよお…

こっちは
兵仙だぜ？



驚かせたか、すまない
だが、私から離れない
でくれ

わっ！？



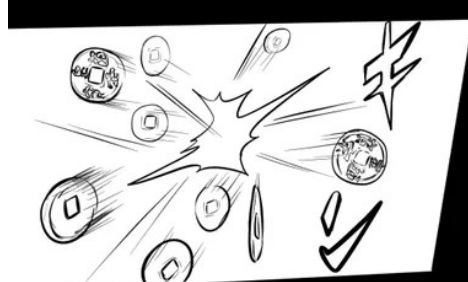
ギョロの操る
仙術は桁が違う

エッ？





竹簡に広がりし我が仙境
伊爾根覺羅が居城：
今ここに顕現する



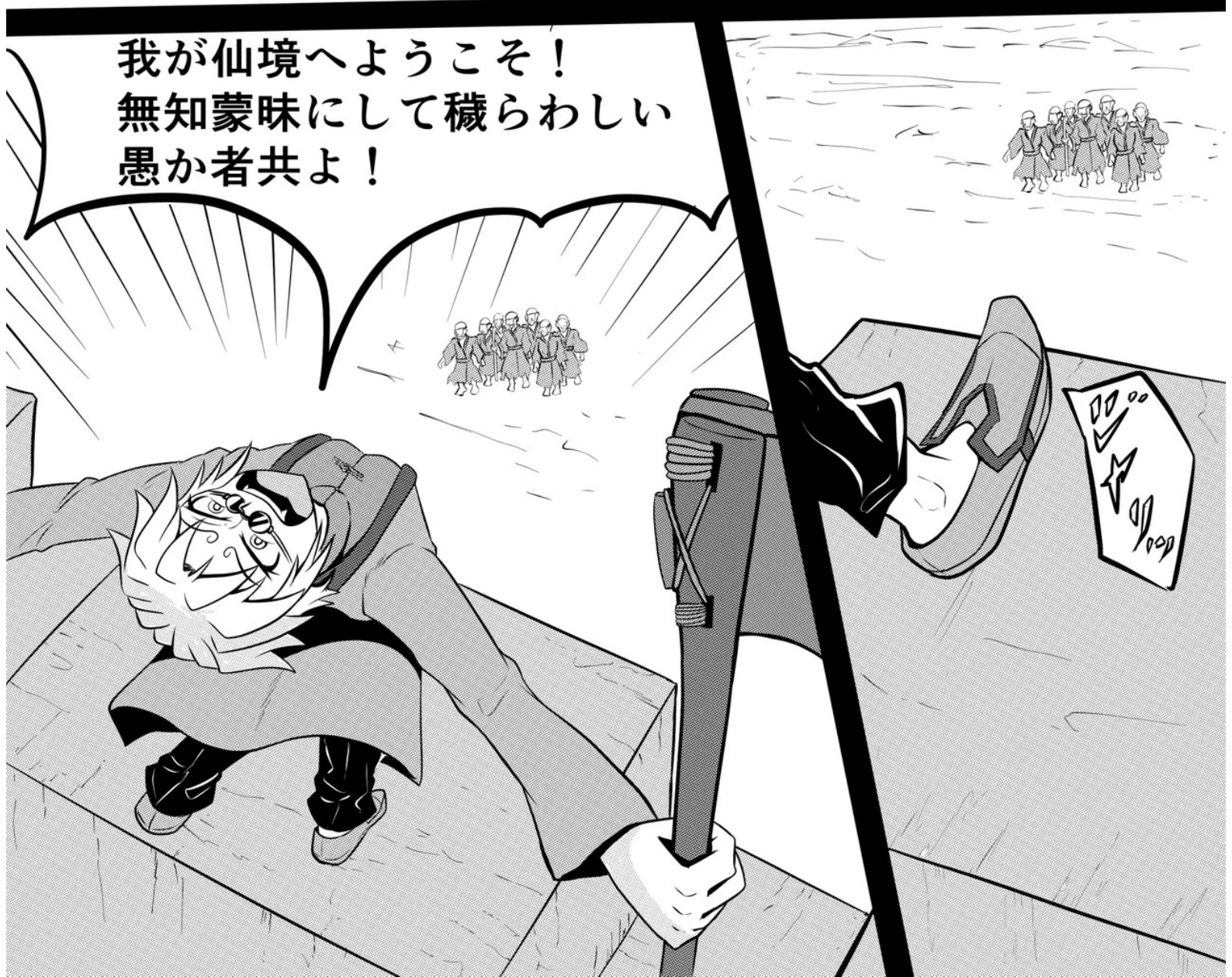
ぬおお!?



おお!
解けた!



なっ...何だこれは!?



我が仙境へようこそ!
無知蒙昧にして穢らわしい
愚か者共よ!





ギョロ!
仙境顕現なんて
大仙術を!

城壁を飛び越えるなんて相変わらず
凄い身体能力してるね
ちよつと待ってて、すぐ片付けるから
それに---



ゴッ
ゴッ
ゴッ
ゴッ



ザッ

ザッ...



来たれ我が士卒

コイツらぶつ殺すには
これくらい必要じゃん



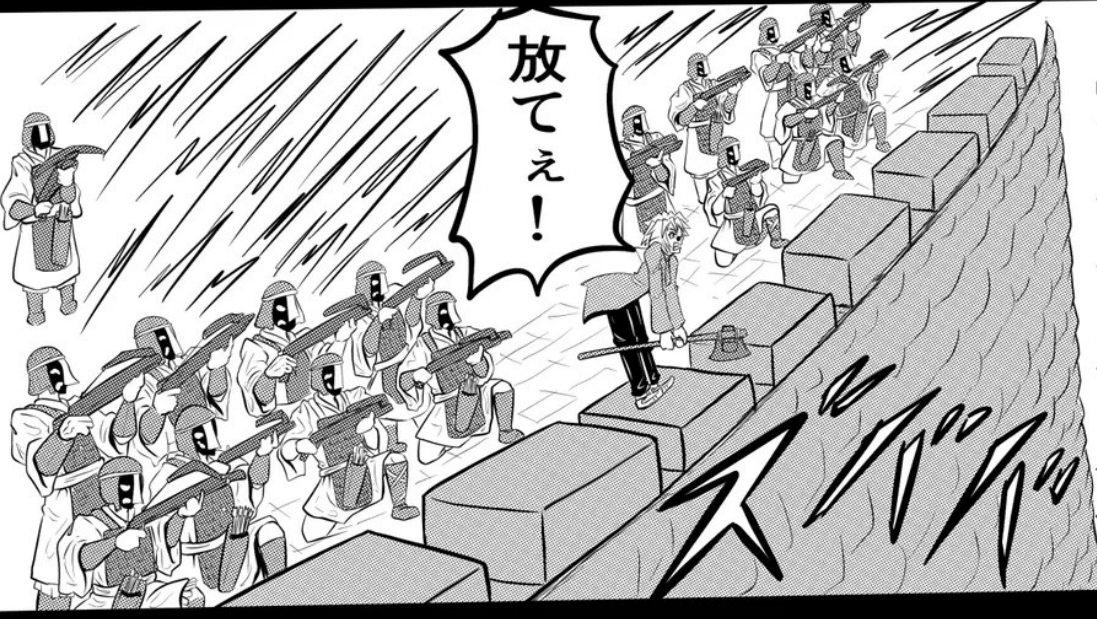
軍権司る鉞の下に集え兵
天将率いる神兵軍
その数十万と号す

千軍万軍自在に操る
神仙の御技刮目せよ
我こそは兵仙
伊爾根覚醒・美芳



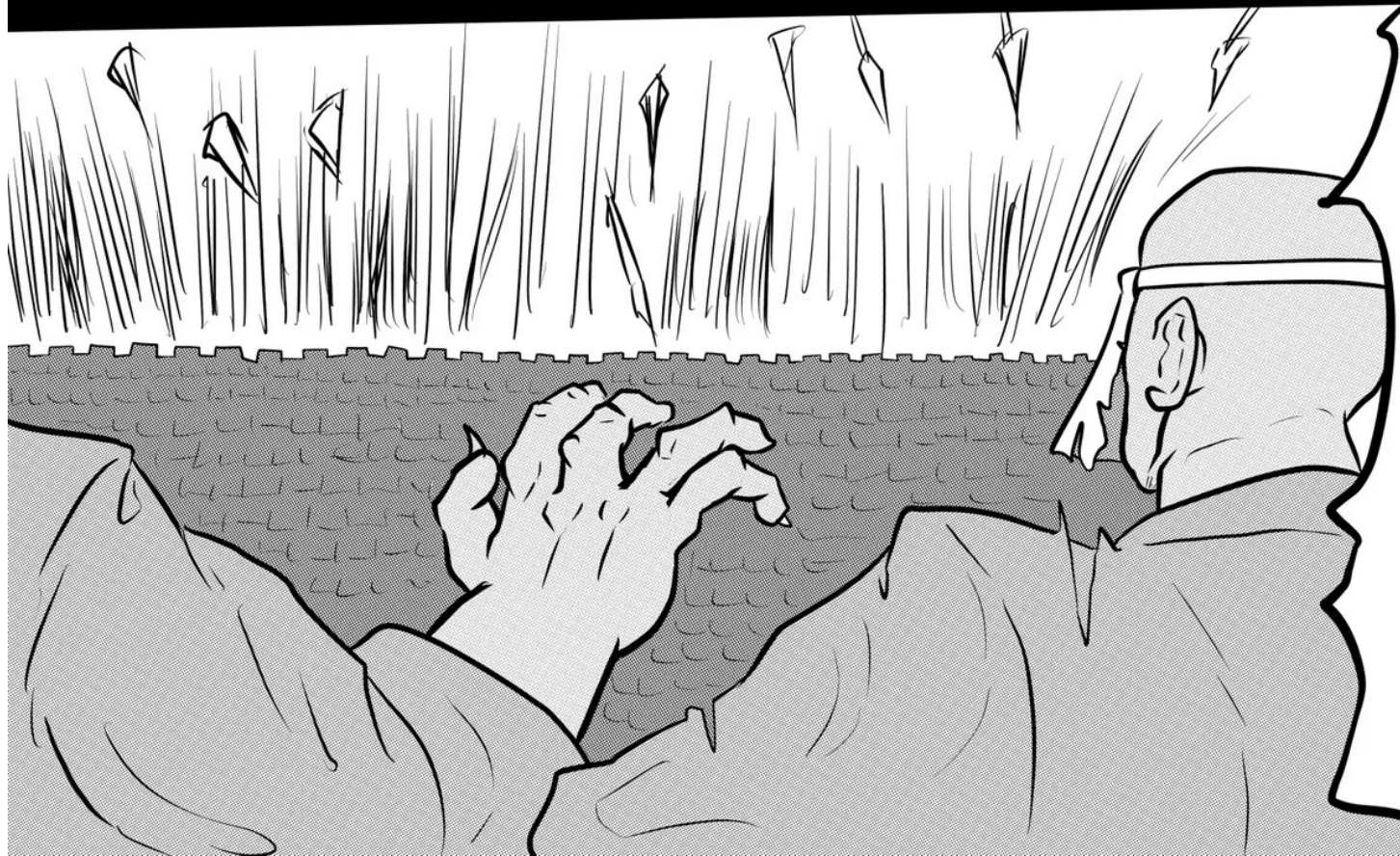
弩兵構ええい!

万弩斉射



放てえ!

兵法仙術



うおおおおお!



そんな!?
どうして!?

受けた攻撃に対応して
再生している
もう万弩斉射も効かない



なるほど、これが7人ミサキか
出えば死が訪れる7人の荒神…
破壊されるたびに力を増す権能
人間に対処できる存在じゃないねこりや



こうなつては仕方がない
私が時間を稼ぐから
ギョロは間切くんを連れて
離脱してくれ

自己犠牲の精神が過ぎる…
それじゃ、私が来た
意味がないだろ!



いや、もう攻略方法出てんのよ
何だったら仕込みも済んでんのよ
私、兵仙だし神算鬼謀の持ち主だし



説明すつから

7人ミサキの再生と強化、これを無限に行える
パワーストーンはどこから来ているのか?
答えはこの地に流れる龍脈、あいつら龍脈から
エネルギーを汲み上げてんのよ



ムカつくよなあ…
実質兵站無限だぜあいつら

あいつら
だからさ7人ミサキの兵站…



焼いちまおうぜ!



焼土仙術

堅壁清野

けんぺきせいや

無念…

凄…龍脈を焼き払うなんて初めて見ました…
と言うか燃やせるんですね…

凄いでしょ？
見る目あるねキミ…
兵法とか仙術興味ない？
あるよね、見れば分かつちゃうもん

えっ…
あの…

ねっほらカワイイお口開けて

私が作った仙丹飲ませてあげる
一粒で地仙になれるから
私の仙術全部教えてあげるよ
ほら早く疾く律令の如く
あしろ

あっ！

やめないか、ギョロ
間切くんが困っている

うう…
この子奇貨なりい
(私の元に置くべし…)

ナデ ナデ

間切くんには、自流の
修験法術があるから
ダメだ

じゃあ一葉
Hしよ♡

ケチ！
今日はダメ
ごめん
許す♡

あの…一葉さんはどうして僕の名前を知ってるんですか？



退魔行は今回が初めてなのに…

ああ、知っているともキミのご両親は私の命の恩人だからな



ギョロ、真面目な話をするから帰りの準備をしてくれ

ギョロ!

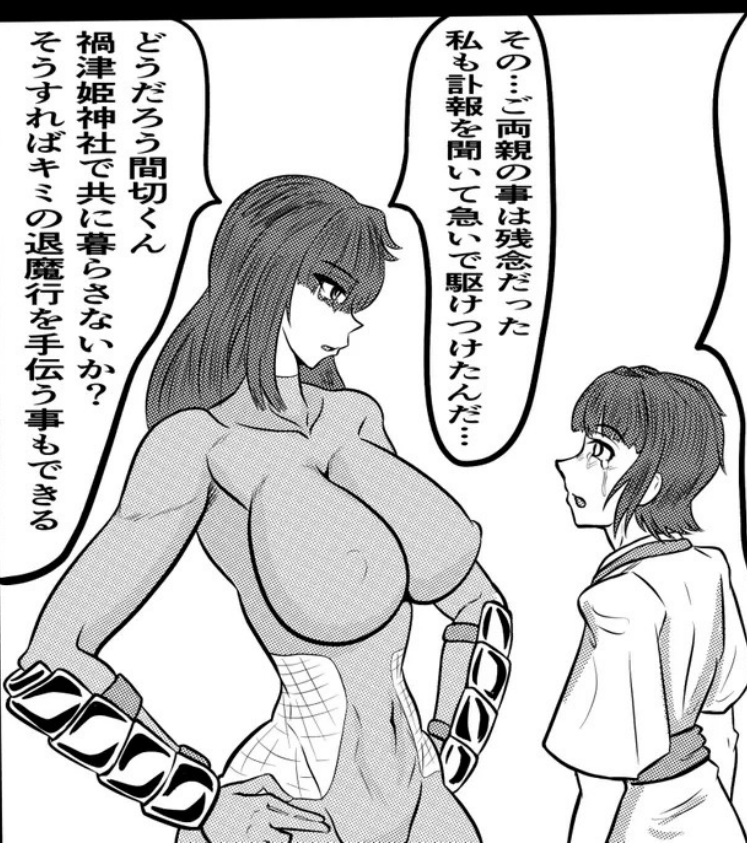
私も初めての退魔行で強力な怪異に返り討ちにあってな



その時にキミのご両親に助けられたんだよ

それ以来、父と母を早くに亡くした私を気にかけて、なにかと良くしてもらったんだ

そうだったんですね…ボク何も聞いていなくて…父さんも母さんも退魔行から帰ってこなくて退魔教会から7人ミサキの討伐勅書が来て…



その…ご両親の事は残念だった私も計報を聞いて急いで駆けつけたんだ…

どうだろう間切くん 禍津姫神社で共に暮らさないか？ そうすればキミの退魔行を手伝う事もできる



退魔師とは本来単独で行動する

ものだ、己の技を磨き一族の秘伝とし

怪異と戦う…本来、退魔師とは争い

合う存在だ、強大な力を持つ怪異を

相手に力を合わせて戦えるように

退魔師を一つに統一したのが退魔教会

だが…最近の退魔教会は…

こんな事は口にすべきではないのだが

私は現在の退魔教会を信用出来ない



間切と禍津姫
共に助け合うと言うのは
どうだろう？



教会はこれからも無理な退魔行を
命令してくるだろう…
だから



所でこの私作った仙丹を
一粒飲むだけで、下級仙人の地仙に…
やめろ



技量が未熟なのは私も同じ
ともに高め合ってゆこう

実力は未熟でもキミには
己を顧みず危険に飛び込む
勇気がある、私を助けてくれた
時のようにな



でも…ボクなんて弱くて
役に立たないですよ…
父さんや母さんみたいな戦いなんて
ボクにはとても…



